

検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成29年11月号 目次

【トピックス】

遺伝子組換え食品の検査	1
-------------------	---

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月	3
--------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	7
---------------------	---

遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては主に定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成29年5月と平成29年8月に、食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体について、遺伝子組換え食品の検査を実施しました。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能
コーンスナック菓子等	日本(5)、ギリシャ(1)	6	0	0
とうもろこし茶等	韓国(2)、日本(1)	3	0	0
タコシエル	オーストラリア(1)	1	0	0
計		10	0	0

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*2}の定性検査を行いました。

検査の結果、9検体で不検出、1検体で検知不能^{*3}となりました。違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能
ライスペーパー	ベトナム(3)、日本(3)	6	0	1
麺類(ビーフン、フォー等)	ベトナム(2)、タイ(1)、台湾(1)	4	0	0
計		10	0	1

^{*2} いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

^{*3} 「検知不能」とは、元々食品が持っている、本来なら遺伝子組換え食品であるかどうかにかかわらず検査で検出されるはずの遺伝子(内在性遺伝子)も不検出となり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に食品中の遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

3 遺伝子組換え大豆の定量検査

大豆穀粒10検体について、国内承認済の遺伝子組換え大豆3品種(RRS、LLS、RRS2)^{*4}の定量検査を行いました。これらの検体は、非遺伝子組換え大豆で、分別生産流通管理^{*5}が行われていました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下^{*6}であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
大豆穀粒	カナダ(5)、アメリカ(3)、 中国(1)、日本(1)	10	0
計		10	0

^{*4} いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだ大豆の品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

^{*5} 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた非遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は、「遺伝子組換えでない」等と表示することができます(任意表示)。もし、分別生産流通管理が実施されていない場合は「遺伝子組換え不分別」等、遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示が必要です(義務表示)。

^{*6} 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、大豆では5%以下の意図せざる混入が認められています。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が継続して出ています。
- 手足口病の流行警報が発令中です。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

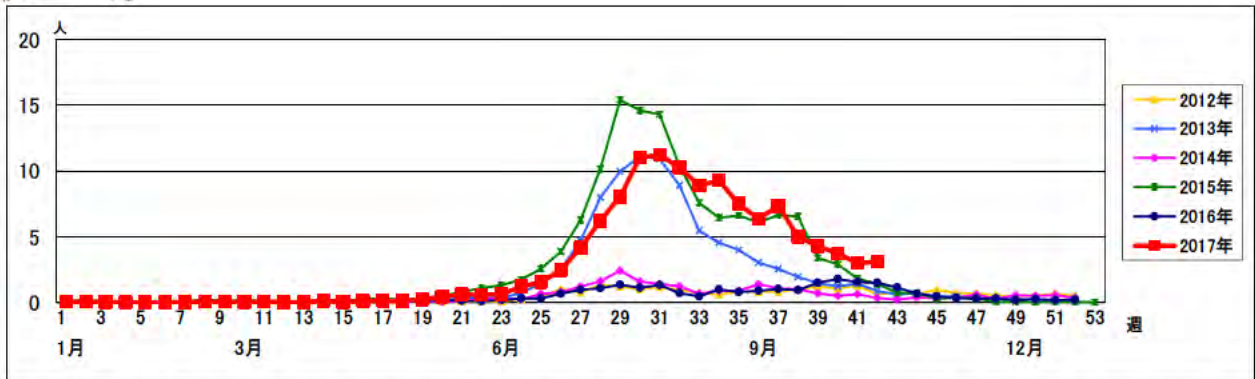
腸管出血性大腸菌感染症	12件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	風しん	1件
急性脳炎	2件	—	—

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が10件、O26の報告が2件ありました。うち、20歳代でHUSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が2件ありました。
- E型肝炎: 1件あり、中国での経口感染と推定されています。
- デング熱: 1件あり、インドネシアでの感染と推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が6件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 4件の腸管アメーバ症の報告がありました。いずれも国内での感染と推定され、経口感染が1件、性的接触(性別不詳)が1件、感染経路不明が2件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件ありました。いずれも病原体不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、その他の報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が1件、異性間の性的接触が1件、異性間の性的接触または薬物の静脈注射が1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が4件(いずれもワクチン接種歴不明)、60歳代の報告が2件(ワクチン接種歴なし1件、不明1件)、40歳代の報告が1件(ワクチン接種歴なし)でした。
- 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴なし)ありました。
- 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性8件、女性4件でした。感染経路は、異性間性的接触が9件、同性間性的接触が1件、性別不詳の性的接触が2件です。

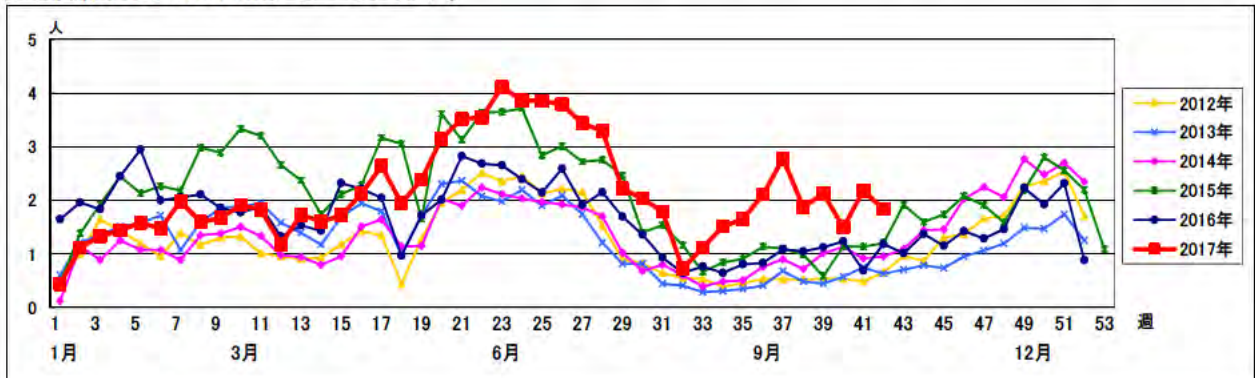
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第39週	9月25日～10月1日
第40週	10月2日～10月8日
第41週	10月9日～10月15日
第42週	10月16日～10月22日

1 手足口病:第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は漸減し、第42週では3.08となっています(警報解除基準値は2.00)。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第35週で1.65、第37週で2.78と増加し、その後も報告数の多い状態で推移し、第42週では1.83となっています。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:1件	淋菌感染症	男性:18件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	1.00	1.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、内科定点16件、眼科定点3件、基幹定点4件で、定点外医療機関からは2件でした。

11月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株15例と遺伝子15例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ ^{*1}	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 ^{*2}	手 足 口 病 ^{*1}	ヘル パン ギー ナ	そ の 他
インフルエンザ AH1N1pdm09型			1					
インフルエンザ AH3型			3					
インフルエンザ B型山形系統			6					
アデノ 型未同定					2			
パラインフルエンザ 2型	1	1						
パラインフルエンザ 3型	2							
パラインフルエンザ 4型		1						
RS				1				
ライノ	1							
コクサッキー A2型	1							
コクサッキー A4型							1	
コクサッキー A6型						1		
コクサッキー A9型	1							2
コクサッキー B2型		1						
エンテロ 71型						2 1		
エコー 9型	1							
合計	1 6	2 1	10	1	2	2 2	1	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

〈細菌検査〉

10月の「細菌感染性胃腸炎」は、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2が5件、O157:H7,VT2が3件、O26:H11,VT1が1件)が9件、サルモネラ属菌(O4群1件、O8群1件)が2件でした。

「その他の感染症」では、バンコマイシン耐性腸球菌(*VanA*)が1件、レジオネラ属菌の3件は*Legionella pneumophila* SG1でした。インフルエンザ菌の莢膜型は型別不能でした。また、その他の3件は、*Actinomyces israelii*、*Mycobacterium abscessus*、*Aggregatibacter aphrophilus* が持ち込まれた菌株から同定されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

細菌感染性胃腸炎			10月			2017年1月～10月		
検査年月	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			0	2	9	6	49	94
菌種名								
赤痢菌							3	2
腸管出血性大腸菌					9		7	83
腸管毒素原性大腸菌							5	3
腸管凝集性大腸菌							4	
チフス菌							1	
サルモネラ属菌				2			20	5
不検出			0	0	0	6	9	1
その他の感染症								
検査年月	定点の区別		10月			2017年1月～10月		
件数			小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			3	2	52	30	85	193
菌種名								
A群溶血性レンサ球菌	T1					9		1
	T4		1			5		
	T6					4		
	T12					2		1
	T B3264					3	1	1
	型別不能		1			2		
B群溶血性レンサ球菌							2	7
G群溶血性レンサ球菌				1			3	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌								3
バンコマイシン耐性腸球菌					1			9
レジオネラ属菌				1	2		2	7
インフルエンザ菌					1	1	1	5
肺炎球菌							5	14
結核菌					45		20	111
百日咳菌							4	
緑膿菌							1	
その他					3		44	25
不検出			1	0	0	4	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年10月の総アクセス数は、103,536件でした。前月に比べ約5%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}67.1%、保健情報12.2%、検査情報月報4.3%、食品衛生2.9%、生活環境衛生2.6%、薬事0.6%でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

10月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「横浜市感染症情報センタートップページ」、3位は「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。1位の「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数は、継続的に上位を占めています。また、前シーズンのインフルエンザ流行情報に関するタイトルが上位に入り、関心の高さがうかがえます。

表1 平成29年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	8,514
2	横浜市感染症情報センタートップページ	4,160
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,798
4	衛生研究所トップページ	3,158
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,883
6	横浜市インフルエンザ流行情報18号	1,953
7	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	1,658
8	電子パンフレット「MRSAってなあに？」	1,621
9	チメロサルとワクチンについて	1,417
10	横浜市感染症発生状況(全数情報)	1,340

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年10月の問い合わせは、5件でした(表2)。

表2 平成29年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
予防接種について	1	感染症・疫学情報課
リンクの許諾について	1	感染症・疫学情報課
ワクチンとチメロサールについて	1	感染症・疫学情報課
横浜市感染症情報センターの流行情報の利用許諾について	1	感染症・疫学情報課
「横浜市衛生研究所webサイト」転載許諾について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年10月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成29年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 3日	衛生研究所YCANドメイン移行業務委託の公募について【質問への回答】	掲載
10月 4日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
10月 4日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
10月 4日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
10月10日	平成29年 熱中症情報	更新
10月11日	ダニ媒介脳炎について	更新
10月12日	英国のこどもの定期予防接種について	更新
10月13日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
10月18日	2017(平成29)年度のインフルエンザワクチンについて	掲載
10月20日	手足口病の発生状況	掲載
10月30日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】